

子どもたちの健やかな成長のために 小中一貫教育全国サミット in 品川

小中一貫教育全国連絡協議会（*）が主催する「小中一貫教育全国サミット」が7月30日、東京都品川区で開催されました。今回で5回目となる「小中一貫教育全国サミット」。昨年の宗像市での開催に続き、本年度は品川区立小中一貫校「日野学園」で開かれ、教育関係者を中心に全国から約1800人が参加しました。

■問い合わせ先 教育政策課 ☎（36）5099



実践報告で終日熱い議論

開会行事では、開催地を代表して品川区教育委員会の若月秀夫教育長が、「小中一貫教育という新たな教育活動の創造には試行錯誤がつきものです。志を同じにする仲間同士が共に知恵を絞り、子どもの成長に真に役立つ方策を語り合います」とあいさつ。



開会行事の様子

*小中一貫教育全国連絡協議会とは

全国で小中一貫教育、小中一貫校の研究・開発に取り組み自治体、学校、個人、企業が情報を交換し、さらに研究・実践を深化させるために作られた会。平成22年度現在、宗像市を含め全国で23の自治体が加盟しています。



市の成果を報告した「シンポジウム」

「施設分離型小中一貫教育の課題を探る」をテーマに、教育行政（教育委員会）や学校を代表した5人の登壇者によるシンポジウムが開催されました。シンポジウムの一人には、宗像市から自由ヶ丘中学校の田中雅子校長が登壇。「施設が離れていても、兼務教員による授業交流や小中合同の授業研究会を通して、小・中学校の先生たちは互いを理解し、良さを学び合うことができまし」とこれまでの宗像市が進めてきた小中一貫教育の成果を力強く報告しました。



市の成果を報告する田中校長（右端）

中央中学校区の実践を報告した「分科会」

午後は、①施設分離型の組織運営 ②施設分離型の学力向上 ③施設分離型の生活指導 ④独自教科（心の教育） ⑤学校施設 ⑥施設一体型小中一貫教育の6つの分科会に分かれて、全国各地の実践活動が報告されました。宗像市からは、



分科会で実践発表する横川教頭（右から2人目）

小中一貫教育全国サミット in 品川に参加して

発表された2人の先生のほかに、宗像市からは約20人の先生がサミットに参加し、熱心に勉強しました。

●加治史恵教諭（自由ヶ丘小学校）

サミットには、全国から多数の学校が参加し、「小中一貫教育」が全国的な広がりを見せている

「施設分離型の学力向上」分科会の中で、南郷小学校の横川哲朗教頭が発表。「小中の先生たちが指導方法を一貫したことで、学力の向上はもとより、中学校入学時の子どもたちの学習に対する不安が減少していきまし

*中央中学校区3校は10月29日（金）に研究発表会を開催します

ことを改めて感じました。サミットでは、各学校の取り組みのパネル展示や実践発表がありました。どの学校も、小中一貫教育を推進していく中で「交流・連携」を大切にしていくということがよく分かりました。児童・生徒の交流、小・中職員の交流、連携が実施



各学校の取り組みを紹介したパネル展示

●野本俊彦教諭（河東中学校）
「施設分離型小中一貫教育の課題を探る」と題して開催された今年の全国サミット。各地区から実践報告では、各々が直面する教育課題を小中一貫教育という方策を用いて解決しようとする創意工夫とその根底にある情熱を強く感じました。その中でも特に印象的だったのは、「推進上のさまざまな課題は『人のつながり』とそこに生まれる知恵』でカバーできるのではないか」ということです。河東中学校区も施設分離型であり、人的・物的



な課題がありますが、小学校と中学校がさらに太いパイプでつながり、家庭・地域と連携して、「子どもたちのため」の小中一貫教育を推進していきたいと思えます。



市内3大学の図書館の本は
市民図書館で借りられます

市民図書館と市内3大学の図書館（福岡教育大学附属図書館、日本赤十字九州国際看護大学図書館、東海大学福岡短期大学図書館）は、平成18年4月1日から図書館の本の貸し借りを「相互貸借」を始めました。大学図書館が所蔵している本で借りたいものがあれば、市民図書館へ申し込んでください。毎週水曜日に配本車を運行し、希望の本を市民図書館のカウンターまで届けます。

- 市民図書館に備え付けのリクエストカードか、ファックス（ファックス専用リクエストカードを使用）で予約をしてください
- 各大学が所蔵する資料は、市民図書館ホームページ（http://munakata.uxt.cknet.co.jp/）のリンク集から検索することができます
- *日本赤十字九州国際看護大学図書館の本は、館外貸出できません。市民図書館内での閲覧のみとなります

■問い合わせ先 市民図書館 ☎（37）1321

